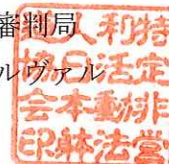


2014年9月5日

棄権・ドクターストップ・補欠制度等に関する通知書

NPO 法人日本躰道協会 審判局
審判局長 ヒューゴソン アル



拝啓

新涼の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、標記の件、過日はアンケートにご協力頂き、誠にありがとうございました。その結果、下記の通り決定致しましたので、ご案内申し上げます。

つきましては、内容をご確認のうえ、関係各位への周知徹底をよろしくお願い致します。

すでに大会要項が出ている全国大会においては、可能な範囲でこの通知書の内容に準じて開催して頂きたいと存じます。(来年以降は、通知書の内容で統一して頂くようお願い致します。) 尚、ご意見、ご質問等ございましたら、審判局までご連絡をお願い致します。

敬具

記

【棄権】

定義

- ・自らの意思によるもの。(怪我、遅刻等)

決定事項

- ・個人戦で棄権の場合、その後の該種目への出場は不可。
- ・団体戦で棄権した場合、その後の該種目への再出場を認める。
(例)
 - ・怪我で午前中に団体実戦を棄権した後の次戦以降への再出場
- ※ただし、体力温存等戦略的な棄権の場合、再出場は認めない。
- ・棄権した種目以外の種目への出場は認める。

(実戦競技における判定例)

- ・赤の選手の蹴りが白の選手の顔面に当たり(失格を言い渡す程ではない)、白の選手が大事を取って自ら棄権を申し出た場合。

⇒赤に注意を与えた後、「白棄権につき、赤の勝ち」となる。

【ドクターストップ】

定義

- ・当日の医療班の指示によるもの。

決定事項

・ドクターストップを言い渡された選手は、安全性の観点や現時点での医療班の充実が難しいことから、これまで同様、該種目のみならず、その後のその大会の全ての競技(個人戦、団体戦に関わらず)への出場を認めない。

(例)

- ・午前中の団体実戦予選でドクターストップとなったが、チームが午後の決勝まで残った場合。
- ・2日間開催で1日目にドクターストップを言い渡されたが、チームが2日目に残った場合(2日間開催でもその大会を一つと考える)。

(実戦競技における判定例)

・赤の選手が何もしていないにも関わらず、白の選手が突然骨折してドクターストップとなった場合。

⇒「白ドクターストップにつき、赤 一本」となる。

・赤の選手が例えば、倒れている相手の顔面へその場で何度も蹴りを繰り返し、白の選手がドクターストップとなった場合。

⇒「赤失格につき、白 一本」となるが、白はドクターストップのため、次戦には出場できない。

【補欠制度】

決定事項

- ・補欠も種目制限の対象とする。
 - ・補欠制度を利用した場合、元の選手の復活は不可。
 - ・怪我等やむを得ない場合のみ制度の利用可。
 - ・各競技の補欠人員は以下の通りとする。
 - ・団体法形競技：1名
 - ・団体実戦競技：1名
 - ・団体展開競技：1-6名
 - ・補欠のみの選手の出場費もこれまで同様、選手と同額とする。
- ただし、団体展開競技は補欠人員が何名であっても1名分の出場費とする。
- ・補欠の選手が出場しない場合でも、余計な混乱と煩雑な作業を避けるため、これまで同様、返金はしない。

【その他】

団体競技における決定事項

- ・団体戦において、棄権、ドクターストップ等により、決勝に出場するチームが1～3つになった場合、次の基準に則り、決勝戦を行う。
 - ・団体法形競技：5位以下のチームを順に繰り上げ
 - ・団体実戦競技：繰り上げなし
 - ・団体展開競技：5位以下のチームを順に繰り上げ

実戦競技における決定事項

- ・個人実戦競技
 - ・3位決定戦及び決勝戦の2試合のみ延長戦を行う(1分間を1回まで)。
- ・団体実戦競技
 - ・人員が3名に達しない場合は、出場資格なし。
 - ・代表戦は1回まで。
 - ・1試合目が先攻であったチームは代表戦では後攻となる。
 - ・背番号は元の番号と同じとする。
 - ・それでも勝敗が決まらない場合、その代表者同士による延長戦を行う(1分間を1回まで)。
 - ・代表戦の延長戦でも勝敗が決まらない場合は、審判が内容を判断し判定を下す。

尚、上記の内容は日本剣道協会主催の全国大会で設定させていただくもので、面ピットに関しては、以下を正式なルールとして通知致します。併せてご確認のうえ、周知徹底をよろしくお願い致します。

- ・男女問わず、初段未満もしくは中学生以下の選手は必ず協会公認の面ピットを着用しなければならない。
- ・それ以外の選手は任意で協会公認の面ピットを着用することができる。

以上